

平成30年3月16日

貝塚市議会議長 殿

視察・研修会報告書

報告者 平岩征樹

参加者 平岩征樹

JISSEN 自治体政策青年ネットワーク 2017年度年第4回研修会

開催日：平成30年2月13日（火） 10：30～17：00

会場：衆議院第一議員会館 B1 第5会議室

○持続可能なまちづくりに向けた未来シミュレーター
倉阪秀史氏（千葉大学大学院人文社会科学研究科教授）

25年後の地域ストックの課題に気づくための未来シミュレーター「未来カルテ」を開発された倉阪教授より、未来カルテの開発と使い方についてお話しを伺った。未来カルテは、現在のデータから、人的資本の維持サービス（保育、教育、医療、介護）に関する需給ギャップ、住宅の需給ギャップ、農地の耕作ギャップ、財政の収支ギャップなどが、どのように発生するのかを、全国の各市で予測できるよう開発されている。これを使った市民ワークショップの話もとても興味深く面白い取り組みだった。



○和食給食促進を通じた食育について

農林水産省 食料産業局 食文化・市場開拓課

農林水産省が進める日本食と食育についてお話しを伺った。文化としての「日本食」をどのように守りまた世界に広げていくのか、様々な観点からの議論も行われ、政策としてどこまで踏み込んで行くのかも含めて課題が分かった。



○RPAによる自治体業務改革

西川裕也氏（早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員）

「RPA」RPA(Robotic Process Automation=ロボティック・プロセス・オートメーション)は、AI や機械学習のプロセスを使い、今まで人がやっていた作業を自動化や効率化をはかるもの。つくば市で実証実験されたり、港区の平成 30 年度予算案でも発表されたりしている。RPA の企業・自治体への導入について、具体的な業務改革の話についてお話しを伺った。



○SDGs と地方自治体の取り組みについて

星野智子氏（一般社団法人 SDGs市民社会ネットワーク理事）

SDGs とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。地球上の誰一人として取り残さないことを目的に、発展途上国、先進国問わず実践されているもので、主に地方自治体の取り組みについてのお話を伺った。



開催日：平成 30 年 2 月 14 日（水）10:00～12:00

会場：シェアハウス「柏あさひハウス」

住宅に困っているひとほど、部屋が借りられないという現状を何とかしたいと、元杉並区議会議員の奥山たえこ氏が 8 カ月前に開設。築 17 年の二階建ての空き家を改修した物件は、全 8 室。家賃と光熱費は低廉。敷金や礼金、連帯保証人が不要で、住宅が借りられない方も借りられる。中は清潔で、システムキッチン、リビング、足を伸ばせるバスタブの広いお風呂などが共有になっており、女性が安心して住める環境になっている。

- ・空き家が増えているのに、どうしてシェアハウスが活用できないのか。
- ・住宅セーフティネット法、生活困窮者自立支援法などのお話。
- ・運営はどのようにやっているのか、資金繰りはどうなっているのか。
- ・生活困窮者を受け入れる、ということはどういうことか。

など、様々なお話を伺いました。生活・住宅に困窮する女性への支援について、色々考えさせられるものだった。

開催日：平成30年2月14日（水） 13：30～15：00

会場：柏市議会

○中学校の標準服導入について

柏市教育委員会学校教育部学校教育課

柏市にこの春オープンする中学校の制服導入についての経過と考え方についてお話しを伺った。メディアでは某ブランドの制服導入について話題になっているが、こちらでもLGBTに配慮した標準服(男はズボン、女はスカートを必ずしも選ばなくていい)として少し前に大きく報道されたもの。議論の経過の議事録は全て公開されていて、教育委員会としては特にLGBTにと言う訳ではなく、いろんな意見を集約して学校・地域・保護者・生徒が一緒になって決めたものだということだった。義務教育下における制服議論は、何よりも当事者のコンセンサスが必要だと感じた。

